【様式1】　　令和4年度

団体名　**八重瀬町立 東風平中学校**	連絡先　TEL：**098-998-2107** E メール：　**kjh-t@yaese-edu. jp**

1　実践事項（②）

タイトル：　生徒の『自己肯定感』をはぐくみ、学力向上につなげていく！
～生徒と先生が一体となり『学びに向かう』東風平中学校へ～

2　実践内容

（1）校内研修テーマを「学びに向かう生徒の育成」、サブテーマを～学校教育活動全体において、生徒の自己肯定感を高める取り組みを通して～と設定し、（図１）３つの重点的取り組みを実施している。
取組１：各教科で、生徒が学びに向かっている姿を捉え、その姿を目指した、問いが生まれる授業を実践。取組２:教科会や校内研修では、「生徒にどういった力が身に付いたか」という、学習成果や課題を捉えて、指導と評価の一体化。取組３：全生徒対象の教科面談や、放課後、２０分間の裁量の時間『ステップアップタイム』を設定し、生徒の学習改善を促す個別指導を実施している。

（2）全職員による一人１研究授業の実践と３回以上の授業参観を実施中。各教科で指導案検討会と授業研究会を実施して授業改善を図っている授業における生徒の活躍や先生方の頑張りをまとめた校内研修だより「先生方のイイね」を発行し、学校 HP へ掲載。先生・生徒・地域が一体となり、学びに向かう東風平中学校を目指している。

（3）道徳の授業では、教師ローテーション道徳を行うことで、学年の全職員が学年の全生徒と関わる契機となり、全職員で道徳の授業実践を深めている。また、特活の授業では、平和・人権特設授業に向けて校内研修で授業づくりに「協働」で取り組むことによって、授業改善の視点を共有化し、組織的に授業改善に取り組んでいる。（図２）

（4）諸調査を分析し、本校生徒の今を捉え、何ができていて（成果）、どこに弱点があるのか（改善点）を全職員で共有し、授業改善に取り組む。（図３）

（5）今年度、学力向上の取組の１つとして、生徒会・中央委員会の生徒が企画した、生徒同士で、共に学び合う『スタ場』をスタート。定期テスト前に実施して、全１１回、1000 名以上の生徒が参加している。仲間に教える経験を通して、学習の定着を図っている。（図４）

3　説明資料

図１　研究のメージ図

図２　校内研修だより「先生方のイイね①」

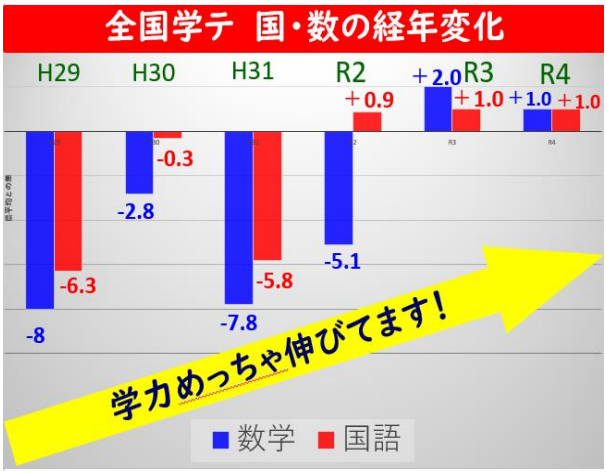

図３　全国学力・学習状況調査の分析

図４　共に学び合う『スタ場 』の様子

４　成果

○　管理職の助言のもと、全校体制で「PPⅡ」の具現化と「問い」が生まれる授業を共通実践するとともに、道徳や特別活動の授業研究に全職員で取り組む組織的授業改善をおこなうことができた。

○　諸調査において本校生徒の平均正答率が県平均に達しつつある。全国学力・学習状況調査ではここ 2 年間沖縄県の平均点を国語・数学ともに上回ることができた。引き続き生徒の学習改善に努めたい。

○　東風平中校区小中合同研修において、沖縄県義務教育課指導主事長浜朝子先生を招聘し、学習指導要領及び、沖縄県キャリア教育の基本的方針等に関する行政説明や、各校における「キャリアの重点取組」の実践例を学び、学ぶ意義を実感できる取組の充実を図っている。

５　課題

●　令和 4 年度　第 1 回沖縄県生徒質問紙調査（7 月）において、質問 15「これまでに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度利用しましたか。」に対して、「ほぼ毎日」と答えた生徒は、沖縄県が 37.4%に対して、本校は 27.1%（県比-10.3 ポイント）であり、ICT の効果的な活用は本校の今後の課題である。そこで、11 月には東京書籍から講師を招聘し、タブレットドリルを指導改善や、学習改善に活用できるよう校内研修を行った。次年度からは、タブレットドリルを活用し、個別最適な学びを推進する予定である。

●　令和 4 年度　第 1 回沖縄県生徒質問紙調査（7 月）において、質問 8「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。「当てはまる」と答えた生徒は、沖縄県が 19.6%に対して、本校は 23.9%（県比+4.4 ポイント）であり、約 4 人に一人の生徒しか、計画的に勉強できていない現状である。今後、ステップアップタイム活用を促進し、自主学習を定着させるための方策を充実させることで学び方の指導を行っていきたい。